

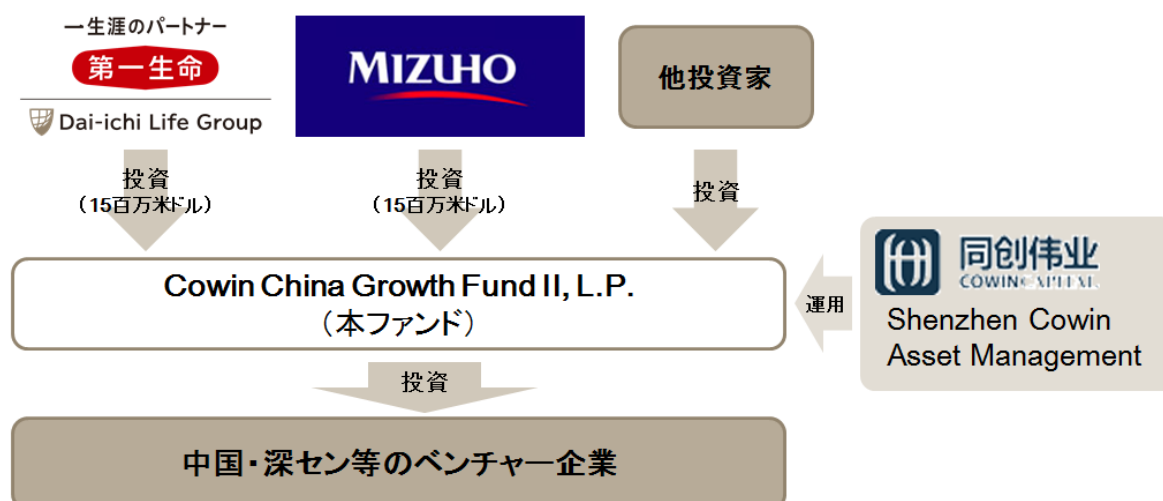
中国深センのベンチャーファンドへの投資 ～第一生命と〈みずほ〉の連携により「イノベーション」への投資を拡大～

第一生命保険株式会社（代表取締役社長：稲垣 精二、以下「第一生命」）と株式会社みずほ銀行（頭取：藤原 弘治）は、Shenzhen Cowin Asset Management Co Ltd（本拠地：中国・深セン、以下「Cowin」）が組成するベンチャーファンド「Cowin China Growth Fund II, L.P.」（以下、「本ファンド」）に対し、共同で30百万米ドル（それぞれ15百万米ドルずつ）を投資することを決定しました。

中国深センは、1978年に経済特区として指定されて以降経済発展を続け、今では世界の最先端テクノロジーの集積地としてアジアのシリコンバレーと呼ばれるまでに成長しています。

Cowinは、2000年創業の深センで最も歴史のある独立系ベンチャーキャピタルであり、これまで組成したベンチャーファンドは良好な運用成績を残しています。本ファンドは、テクノロジー、通信、ヘルケア分野で革新的な技術やサービスを創出するベンチャー企業に投資していく方針です。

<スキーム図>



第一生命は、2019年4月にオルタナティブ投資の専門性・機動性を高めるため「オルタナティブ投資部」を新設し、これまで日本や米国・シリコンバレーのベンチャー企業に積極的に投資してきており、今般中国のベンチャー企業にも新たに投資対象を拡大します。本ファンドへの投資を通じて、第一生命は高い投資収益を獲得するとともに、中国の最先端の技術にアクセスし、新たな生命保険商品・サービスの開発にも繋がることを期待しています。

〈みずほ〉は、5カ年経営計画の基本戦略である「オープン&コネクト」を推進し、重点戦略である成長企業へのリスクマネーの供給、産業振興・育成支援に向けてグループ体で取り組んでいます。その中でも、Start-up 関連ビジネスのさらなる強化に取り組んでおり、同エコシステムが確立されている、もしくはされつつある地域のベンチャーキャピタルファンドへの出資を通じた、リターンの確保やStart-up へのリーチ獲得を企図している中、本件は同取り組みに資するものです。引き続き、〈みずほ〉

は、産業構造変化の中での事業展開の戦略的パートナーとして、お客さまの成長戦略の支援を行います。

【ファンド概要】

ファンド名称	Cowin China Growth Fund II, L.P.
運用会社	Shenzhen Cowin Asset Management Co Ltd
本社所在地	24F, Taiping Finance Tower, NO.6001 Yitian Road, Futian District, Shenzhen, China
代表者	Alex Weihe ZHENG (Chairman)、Lily Li HUANG (CEO)
設立	2000年6月

以上